

★姫路城応援事業「時は今 文化往来 100 人劇場 第二回」  
 2010 年 6 月 26 日、イーグレひめじ  
 「文化で街づくり・人づくり提言・日本の音色で新コラボ」



第二回は田下明光(ラジオ関西報道デスク長・民俗学者)と吉田律子(多可町文化会館運営評議会会長)が自らの体験を中心に街づくりについて提言。石川誠世話人代表と利安武世話人副代表は日本文化に対する深い理解の元、それぞれの立場から貴重な意見を述べられました。

観光ソング「姫路城おどり節」を三味線演奏と歌・おどりで披露。観客も「おどり節」の振付を体験し大いに盛り上がりました。その後、津軽三味線・沖縄三線が演奏され、終演までステージと客席が一体となり拍手がなりやみませんでした。



《姫路城おどり節》  
 さあさ踊れや日の本の  
 白鷺舞うや姫ヶ丘  
 四季折々の花くらべ  
 姿気高き世の宝  
 幾代も誇れる姫路城



日本伝統文化普及会による手踊り、若者に人気のある浴衣姿も可愛いと大好評

北国の迫力ある津軽三味線(加藤流三絃道)演奏、一方では南国沖縄三線の楽しいリズムに、音楽の熱気が客席にも広がり、終演まで観客と音楽が一つになっていきました



★姫路城応援事業「時は今 文化往来 100 人劇場 第三回」  
 2010 年 7 月 17 日、イーグレひめじ  
 「文化で街づくり・人づくり提言・ハワイアンフラ&キモノゆかたショー」



デール・ラージェント文化担当官と濱田昌子の対談(抜粋)

駐日アメリカ大使館文化部長が見る日米両国間の文化交流に関する事項について。

本年で 50 周年を迎える日米安保条約がありますが、この条約が支えた日米の文化的な往来に触れ、この 50 年間の歴史をざっと振り返ってみました。特に、アメリカから発信された多くの文化に焦点をあてることで見えてくる新しい交流の形を考えてみました。

また、今後の時代を考える際に忘れてはいけない、次世代の育成、伝統だけでなく若い人たちが活気にあふれる街やコミュニティ、そして国を作る必要性、若い人たちの心を掴む政策や方法論を模索していかなければいけない現実にも目を向けねばなりません。こうした新しい方針を現実にする為に大使館として、国務省として取り組んでいるいくつかの事例をあげるとともに、それと共に表面化する問題点等も指摘し、価値的な大変換が起きているグローバルな時代において、人に何が求められるのか、街になにが求められるのか、組織に何が求められるのか、こうしたことを将来の発展の為に真剣に議論できる事を望んでいます。(デール・ラージェント)

2 つの提案(濱田昌子)

- 1.戦後の日本文化の大変化については米国の影響なしには語れませんし、それが特に上っ面だけの模倣に終わっていないか、検証するべき時期に差し掛かっています。グローバルな視点で、しかも日本の心を忘れず、自尊心を持った子どもたちの育成を願っています。今は日本人としての良い意味での誇りを失いそうになっているのではと懸念しています。
- 2.日本、特に姫路は観光立国を目指しているはずですが、最近では人と人との交流が薄れています。江戸時代にいきづいてきた「おもてなし、お接待」の心を街づくりに生かすために、実際に何ができるか、何をすべきかなど市民が今までの枠を取り払って智恵を出し合い、ジャンルを越えて協力しあうことが必要ではないでしょうか。



米国大使館のデール・ラージェントさんと在大阪米国総領事館のグレゴリー・ケイさんを迎えて、杉原県民室長のご挨拶。ハワイアングループのフラダンスや日本の着物ユカタショーが満席の観客に楽しく披露されました。



★文化往来 100 人劇場 第四回  
 2010 年 9 月 19 日、姫路キャスパホール  
 「文化で街づくり・人づくり提言・日本舞踊と俳句の四季の妙」



兵庫県立歴史博物館長と  
尾上菊博司



俳句表彰式にて、井上西播俳句協  
会長のご挨拶



FM ゲンキにて放送する俳句協会の  
野間田、井上、アクイラのメンバー

第四回目は兵端信行 兵庫県立歴史博物館長と舞踊家 尾上菊博司による提言があり、広い視野からみた文化提言に観衆は熱心に耳を傾けました。

「日本の四季」の感性を大切にするという意味で、初めて日本舞踊と俳句のコラボレーションが行われた。姫路城奉賀舞「詩謡しらさぎ」に続き「一つやに遊女も寝たり萩と月」芭蕉の句が披露された。俳句協会では「城、舞、四季」を題とした 500 以上の投句の中から選抜された兵庫県知事賞 1 名、姫路市長賞 1 名、白鷺特別賞 1 名、四季賞 4 名、優秀賞 8 名が表彰されました。

～格調高い日本舞踊・古典作品の舞台姿～

